

# 「施策」総括票

施策展開	3-(7)-イ	流通・販売・加工対策の強化
施策	④製糖業企業の高度化促進	
対応する 主な課題	<p>○さとうきびは本県の基幹作物であり、特に産業構造の脆弱な本県の離島においては生産農家の所得や製糖事業関連による雇用も含め、地域経済上極めて重要な作物となっている。一方で、食の安全・安心への対応、製糖施設の老朽化など、安定的かつ高品質な甘味資源の生産に向けてはなお多くの課題が残されている。</p> <p>○含みつ糖生産については、沖縄黒糖ブランドが国内外の認知度は高いものの、需給のミスマッチや安定供給等への課題があるため、消費者等の信頼と満足度を高め、消費拡大へとつなげていくための取組が課題である。</p>	
関係部等	農林水産部	

## I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
1	分みつ糖振興対策事業	938,441	順調	○製造コスト低減が困難な、分みつ糖製造事業者10工場及び含みつ糖製造事業者8工場を対象に、製造コストの一部を助成した。(1、2)
2	含みつ糖振興対策事業	1,752,639	順調	○黒糖原料となるさとうきびを生産している離島地域において、環境負荷低減と品種の選定により黒糖の魅力を高め、持続的に安定生産・安定供給を可能とするため、黒糖原料品種の現地適応調査等の支援を行った。本取組は4事業で構成されるが、そのうちの補植苗供給体制構築支援において、当初3町村を計画していたが、種苗が不足したため、実施できなかったことから、やや遅れとなった。(3)
3	黒糖の力・安定化支援事業	8,774	やや遅れ	
4	沖縄黒糖戦略的供給サポート事業	4,813	順調	

## II 成果指標の達成状況 (Do)

### (1) 成果指標

成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1	甘しや糖の産糖量	96,608トン (22年)	63,554トン (23年)	119,650トン	△33,054トン	115,507トン (23年)
	状況説明	平成23/24年産のさとうきび生産量は相次いで襲来した台風等の気象災害や病害虫被害により約54万トンと平成22/23年産の約82万トンと比較して大きく減産した。その結果、甘しや糖の産糖量についても平成23/24年産については、63,554トンと前年比約35%減と大きく減少した。				

### (2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
沖縄県の甘しや糖の生産実績	110,773トン (21年)	96,608トン (22年)	63,554トン (23年)	↘	115,507トン (23年)

## III 内部要因の分析 (Check)

<ul style="list-style-type: none"> <li>甘しや糖製造事業者は、一般の民間企業とは大きく異なり、生産環境に大きく左右される脆弱な経営体質でありながら、収穫期間が限られるさとうきびの操業期間中の操業停止等のトラブルを回避するため、毎年度のメンテナンスや老朽化に伴う使用限界にある設備更新等多大な設備投資が必要不可欠となっている。また、含みつ糖の事業スキームは、分みつ糖と異なり、製糖期間終了後に精算により支援が行われるため、含みつ糖製糖事業者の経営が不安定な状況にある。</li> <li>沖縄黒糖安定供給に向けた調査及び検討では、県内外の黒糖を原材料とする製造業者等の需要に対応出来る、調整在庫量、管理方法、販売手法等について製糖業者や黒砂糖協同組合等、各関係機関での課題整理と検討が必要である。</li> <li>黒糖の力・安定化支援事業については、補植苗供給体制構築支援として実証展示ほの設置を計画していたが、各地区とも台風や害虫による被害により種苗が不足していたため、実施できなかった。</li> </ul>
---

## IV 外部環境の分析 (Check)

<p>沖縄黒糖の販売を取り巻く情勢は平成22年までの数年間はさとうきび豊作と経済不況が相まった需給のミスマッチにより、黒糖在庫を抱え販売価格が低迷していたが、平成23年以降は、台風等の気象災害による減産によって、一転して供給量が不足する事態となっている。なお、平成25年4月1日より、「黒糖及び黒糖加工品」の原料原産地表示が義務化されていることから、ユーザーや消費者に向けさらに沖縄黒糖の特性をPRし、類似品との差別化を図ることが必要である。</p>
---

## V 施策の推進戦略案（Action）

- ・分みつ糖製造事業者に対する「省エネルギー化や自然環境保護及び品質管理に資する設備の整備」に対する高率補助での支援を実施するとともに、補助対象設備の拡充し、建屋及び設備の更新や修繕を継続して支援することで、安心安全な沖縄産糖の安定供給を確保する。
- ・また、含みつ糖事業者の経営安定には、原料となるさとうきびの安定した確保が必要であることから、さとうきびの生産対策を引き続き推進する。加えて、さとうきび原料代の一部を早期に支出し、分みつ糖同様に製糖事業者等の経営安定を図る必要がある。
- ・黒砂糖協同組合、製糖工場、農業団体、県等の関係機関が連携して、黒糖を原材料とする製造業者等のニーズに応じた供給形態（ブロック、かち割り、粉糖など）の検討、国内外の需要の創出、黒糖のストック機能の検討による安定供給体制、一元化販売推進による沖縄黒糖のブランド化及び入札制度の導入により、安定的な供給が図られるように販路の確保及び拡充に取り組む。
- ・黒糖の力・安定化支援事業については、事業主体及び関係機関と連携し、各地区において種苗を確保する。
- ・沖縄黒糖の定義や黒糖表示について、沖縄県黒砂糖協同組合で所有・管理する地域団体商標を沖縄黒糖商品や沖縄黒糖を使用した商品に表示し、類似品との差別化を図るために、沖縄黒糖使用業者への利用促進や消費者への周知を行う。